

文学と語学教育

——佛教大学英米学科1回生対象の意識調査の分析(5)——

松 本 真 治

1. はじめに

文学と語学教育のあり方の方向づけを見据えるために、筆者は2007年度より英米学科新入生を対象に、英米文学と英語学習に関する意識調査をアンケート形式で実施している。2015年度も例年どおり、4月、英米学科1回生必修科目である「英米文学入門1H」(春学期)の第1回目の授業時に調査を実施した。本稿では、この2015年度の調査結果を報告する。

アンケート形式は、2008年度から採用しているものに2012年度に修正を加えたものを2015年度も使用した。アンケート形式の詳細については松本(2015)を参照願いたい。本稿では、自由記述方式の質問項目15)「目標とする英語力はどの程度ですか?そのためにどんな学習が必要だと思いますか?」の結果は割愛し、各項目のカテゴリカルデータ(順位および頻度)の結果についてのみ報告する。

2. アンケート結果

▼表1-0 実施データ

年 度	実施日	入学者数	授業登録者数	回答者数
2015年度	4月8日	86名	86名	75名

▼表 1 ①英米文学は勉強すべきだと思いますか？

そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
21	38	13	2	1
28.0%	50.7%	17.3%	2.7%	1.3%

▼表 2 ②英語を読むとき、和訳（文）は必要ですか？

そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
19	38	8	7	3
25.3%	50.7%	10.7%	9.3%	4.0%

▼表 3 ③英語を読むとき、直読直解（英語を英語のまま日本語に訳さずに読む）
を心がけていますか？

そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
13	25	18	15	4
17.3%	33.3%	24.0%	20.0%	5.3%

▼表 4 ④文学（日本・外国は問わず）は好きですか？

好 き	どちらかと言 えば好き	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば好きではない	好きではない
14	21	26	10	4
18.7%	28.0%	34.7%	13.3%	5.3%

▼表 5 ⑤映画は好きですか？

好 き	どちらかと言 えば好き	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば好きではない	好きではない
46	17	6	3	1
61.3%	22.7%	8.0%	4.0%	1.3%

▼表6 ⑥日本語字幕なしの英語音声だけの映画は好きですか？

好 き	どちらかと言 えば好き	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば好きではない	好きではない
5	11	16	28	13
6.7%	14.7%	21.3%	37.3%	17.3%

▼表7 ⑦英語を習得するためには「読む」という作業は必要だと思いますか？

そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
55	16	1	1	0
73.3%	21.3%	1.3%	1.3%	0.0%

▼表8 ⑧英語で書かれた本は好きですか？

好き	どちらかと言 えば好き	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば好きではない	好きではない
9	10	38	10	6
12.0%	13.3%	50.7%	13.3%	8.0%

▼表9 ⑨授業以外で英語で書かれたものを读みますか？

日常的に読む	ときどき読む	読まない
5	30	38
6.7%	40.0%	50.7%

▼表10 ⑩授業以外で英語で書かれたものを读みたいですか？

そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
22	35	9	4	3
29.3%	46.7%	12.0%	5.3%	4.0%

▼表11 ⑪英語で書かれた文学を読むことは英語の習得に役立つと思いますか？

そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
52	16	5	0	0
69.3%	21.3%	6.7%	0.0%	0.0%

▼表12 ⑫英米学科生に英米文学の基礎知識は必要だと思いますか？

そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
42	24	7	0	0
56.0%	32.0%	9.3%	0.0%	0.0%

▼表13 ⑬英語で書かれたものを読むなら、どんなものが読みたいですか？
(複数回答可)

小 説	詩	新 聞	雑 誌
38	16	24	20
50.7%	21.3%	32.0%	26.7%

ノンフィクション	歴 史	リーダー	TOEIC／英検等
15	8	27	24
20.0%	10.7%	36.0%	32.0%

※リーダー：やさしい英語で書き直された本

▼表14 ⑭次の英米の作家・作品について [知っている／聞いたことはある／知らない] をつけてください。

	知っている	聞いたことはある	知らない
チャーサー	6	8	61
	8.0%	10.7%	81.3%
シェイクスピア	47	28	0
	62.7%	37.3%	0.0%
ミルトン	5	17	53
	6.7%	22.7%	70.7%
ジェイン・オースティン	1	7	67
	1.3%	9.3%	89.3%
ワーズワース	4	3	67
	5.3%	4.0%	89.3%
コールリッジ	0	2	73
	0.0%	2.7%	97.3%
バイロン	2	8	65
	2.7%	10.7%	86.7%

ディケンズ	2	16	57
	2.7%	21.3%	76.0%
ブロンテ姉妹	2	2	71
	2.7%	2.7%	94.7%
ハーディ	0	8	67
	0.0%	10.7%	89.3%
オスカー・ワイルド	2	22	50
	2.7%	29.3%	66.7%
D. H. ロレンス	2	14	58
	2.7%	18.7%	77.3%
ジェイムズ・ジョイス	1	8	65
	1.3%	10.7%	86.7%
T. S. エリオット	4	3	68
	5.3%	4.0%	90.7%
イエイツ	2	0	73
	2.7%	0.0%	97.3%
グレアム・グリーン	1	2	72
	1.3%	2.7%	96.0%
サマセット・モーム	0	1	74
	0.0%	1.3%	98.7%
コンラッド	2	8	65
	2.7%	10.7%	86.7%
ジョージ・オーウェル	2	9	64
	2.7%	12.0%	85.3%
バーナード・ショー	4	10	61
	5.3%	13.3%	81.3%
E. M. フォースター	2	5	68
	2.7%	6.7%	90.7%
ヴァージニア・ウルフ	2	5	68
	2.7%	6.7%	90.7%
エドガー・アラン・ポー	16	15	44
	21.3%	20.0%	58.7%

マーク・トウェイン	1	2	72
	1.3%	2.7%	96.0%
メルヴィル	0	7	67
	0.0%	9.3%	89.3%
ロバート・フロスト	1	4	70
	1.3%	5.3%	93.3%
ヘンリー・ジェイムズ	2	11	62
	2.7%	14.7%	82.7%
フィッツジェラルド	2	5	68
	2.7%	6.7%	90.7%
フォークナー	1	8	66
	1.3%	10.7%	88.0%
ヘミングウェイ	16	31	28
	21.3%	41.3%	37.3%
オー・ヘンリー	4	17	54
	5.3%	22.7%	72.0%
スタインベック	2	1	72
	2.7%	1.3%	96.0%
テネシー・ウィリアムズ	1	9	65
	1.3%	12.0%	86.7%
アーサー・ミラー	2	11	62
	2.7%	14.7%	82.7%
ソール・ベロー	1	0	74
	1.3%	0.0%	98.7%
サリンジャー	1	8	66
	1.3%	10.7%	88.0%
アップダイク	1	1	72
	1.3%	1.3%	96.0%
『ハムレット』	31	33	11
	41.3%	44.0%	14.7%
『マクベス』	11	9	55
	14.7%	12.0%	73.3%

『リア王』	19	10	45
	25.3%	13.3%	60.0%
『オセロー』	12	14	49
	16.0%	18.7%	65.3%
『ロミオとジュリエット』	59	15	1
	78.7%	20.0%	1.3%
『ベニスの商人』	25	30	20
	33.3%	40.0%	26.7%
『自負と偏見』	0	6	69
	0.0%	8.0%	92.0%
『オリバー・ツイスト』	5	3	67
	6.7%	4.0%	89.3%
『クリスマス・キャロル』	22	34	19
	29.3%	45.3%	25.3%
『荒地』	5	12	58
	6.7%	16.0%	77.3%
『ジェイン・エア』	0	0	75
	0.0%	0.0%	100.0%
『嵐が丘』	1	6	68
	1.3%	8.0%	90.7%
『ガリバー旅行記』	41	29	5
	54.7%	38.7%	6.7%
『ドリアン・グレイの肖像』	0	3	72
	0.0%	4.0%	96.0%
『ダーバヴィル家のテス』	1	1	73
	1.3%	1.3%	97.3%
『チャタレイ夫人の恋人』	3	11	60
	4.0%	14.7%	80.0%
『闇の奥』	0	2	73
	0.0%	2.7%	97.3%
『月と六ペンス』	1	3	71
	1.3%	4.0%	94.7%

『ユリシーズ』	1	1	73
	1.3%	1.3%	97.3%
『インドへの道』	0	6	69
	0.0%	8.0%	92.0%
『ダロウェイ夫人』	0	2	73
	0.0%	2.7%	97.3%
『第三の男』	1	8	66
	1.3%	10.7%	88.0%
『怒りのぶどう』	0	6	69
	0.0%	8.0%	92.0%
『マイ・フェア・レディ』	5	10	60
	6.7%	13.3%	80.0%
『白鯨』	0	18	57
	0.0%	24.0%	76.0%
『モルグ街の殺人』	2	4	69
	2.7%	5.3%	92.0%
『老人と海』	6	11	58
	8.0%	14.7%	77.3%
『武器よさらば』	0	10	65
	0.0%	13.3%	86.7%
『ハックルベリィ・フィンの冒険』	5	4	66
	6.7%	5.3%	88.0%
「賢者の贈り物」	2	4	69
	2.7%	5.3%	92.0%
「最後の一葉」	2	1	72
	2.7%	1.3%	96.0%
『デイジー・ミラー』	0	2	73
	0.0%	2.7%	97.3%
『響きと怒り』	0	0	73
	0.0%	0.0%	97.3%
『はつかねずみと人間』	1	5	68
	1.3%	6.7%	90.7%

『偉大なギャツビー』	2	15	57
	2.7%	20.0%	76.0%
『誰がために鐘は鳴る』	4	14	56
	5.3%	18.7%	74.7%
『ガラスの動物園』	0	1	73
	0.0%	1.3%	97.3%
『セールスマンの死』	1	0	74
	1.3%	0.0%	98.7%
『ライ麦畑で捕まえて』	7	26	41
	9.3%	34.7%	54.7%
『風と共に去りぬ』	10	25	39
	13.3%	33.3%	52.0%

※回答なしも有り

3. 考 察

松本（2015）において2008年度から2014年度の調査結果の詳細な比較を行ったので、今回は2015年度と過年度との比較は割愛し、次年度以降にデータを蓄積してから過年度との比較を行うことにする。全体的に見て、過年度とは明らかに異なる傾向はないようである。

「英米の作家・作品について [知っている／聞いたことはある／知らない] をつけてください」という質問項目であるが（表14）、「知っている」と「聞いたことはある」の判断はあくまでも回答者の主観に委ねているので、そこには個人差があることは否めないが、その点については特に問題とは思っていない。なぜなら、「知らない」と回答した人数によって、英米学科新入生がいかにか英米文学の知識を持ち合わせていないことを明らかにすることが重要であると考えているからである。「知らない」という回答に注目して作家・作品の知名度を見てみると、シェイクスピアを知らないと回答した者は一人もおらず、作家ではヘミングウェイが、作品では『ハムレット』『ロミオとジュリエット』『ベニスの商人』『クリスマス・キャロル』『ガリバー旅行記』を知らないという回

答も少ない。知名度の高そうな『ライ麦畑で捕まえて』や『風と共に去りぬ』については約半数の回答が「知らない」であり、ついでエドガー・アラン・ポーや『リア王』『オセロー』については6割程度が「知らない」と回答している。それ以外の作家・作品については、回答者の間でほとんど知られていないというのが現状のようである。英米学科新入生は大勢としては、英米文学を学ぶことが無駄ではないと感じているが、だからと言って英米文学の知識を持ち合わせているわけではない。したがって、新入生をいかにして英米文学の世界へと誘うのが重要となる。その意味では、学生諸君に翻訳や映画版であれ、とにかく英米文学の作品に実際に触れてもらうことにも大きな意味があろう。

現行の学習指導要領によれば、高等学校外国語科の「コミュニケーション英語Ⅰ」の内容の一つとして「説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する」(87) ことが含まれており、高等学校学習指導要領解説(外国語編)では「物語」の扱いについて次のような説明がなされている。

「物語」は、一定の筋をもった文章である。このため、概要や要点をとらえる際は、登場人物の言動やその理由等を文章に即してとらえることが重要である。加えて、単なる文章理解にとどまらず、物語を読むことは、実生活では体験できないような新しい世界に触れたり、我が国や外国の文化等の理解を深めたりすることに資するものであることにも配慮し、物語を読む楽しさについても体験的に理解させることが重要である。(11)

このように英語で物語を読むことには、英文読解や異文化理解という点での意義が見出されており、さらには読むことだけにとどまるのではなく「読んだ内容について……簡単な感想を述べたりするような活動も併せて行うことが大切である。そうすることで、読む活動の意義を意識させ、概要や要点をとらえることの大切さを理解させることが可能となる」(11-12)との解説もつけ加えられている。このような高等学校での授業のあり方を見ると、大学英語教育においても文学作品を扱うことがあながち間違いということでないであろうが、

ただ、かつてのように英語で書かれた文学作品を日本語に訳すという授業ではなく、作品の内容理解から各学生の感想、意見、考えを英語で発信させるという活動へとつなげていくことも必要であるように思われる。アンケート調査結果に見られたように、英米学科新入生の8割が、意識としては、英語で書かれた文学作品を読むことが英語の習得に役立つと考えているのであるから（表11）、発信力も含めた総合的な英語力養成に向けた授業展開をわれわれ大学教員も考えていかなければならないであろう。

※本稿は、大学英語教育学会（JACET）関西支部・文学教育研究会2015年4月例会（4月25日、同志社大学今出川キャンパス）で口頭発表をもとにしている。

引用文献

- 松本真治（2015）「文学と語学教育——佛教大学英米学科1回生対象の意識調査の分析（4）」佛教大学『文学部論集』第99号 57-72頁
- 文部科学省（2009）『高等学校学習指導要領』 文科省ホームページ
- （2009）『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』 文科省ホームページ